

## シンポジウム「市民参加は進んでいるか」 ～東京地裁・家裁委員会，5年の軌跡と今後の展望～

東京地方裁判所委員会委員 齋藤 義房 (26期)

2009年3月12日，弁護士会館クレオAで，関弁連と東京三会共催によるシンポジウム「市民参加は進んでいるか～東京地裁・家裁委員会，5年の軌跡と今後の展望～」が開かれた。

今回のシンポジウムは，委員会設置後5年を経過した現在の活動状況を報告し，市民により身近な裁判所とするための展望を検討する趣旨で企画された。

当日は，村越進一弁会長および市村陽典東京地裁民事部所長代行のあいさつに続いて，宮山雅行東京地裁委員（二弁），山下正祐東京家裁委員（二弁）から，それぞれの委員会の組織構成，5年間の委員会の運営，協議テーマ，今後の課題について報告があった。

### 地裁・簡裁民事部利用者アンケート報告

ついで，1月15日から2月20日まで，東京地裁委員会（委員長・池田修地裁所長）が実施した「地裁・簡裁民事部の利用者アンケート」の結果が報告された。

今回のアンケートは，民事事件当事者を対象に，市民の声を裁判所の運営に反映させるために実施した。回答数は，実日数26日間で289名であった。

第1の「裁判所に来庁する前に，どこかの窓口で相談しましたか」「相談した窓口はどこでしたか」との質問については，相談した人が106名であり，相談先の内訳は，裁判所が54，弁護士会24，区役所・市役所が14，法テラス12，その他29（複数回答可）という結果であった。弁護士会は，相談窓口のPRとそのあり方をさらに検討する必要がある。自由記載欄には，裁判所の相談窓口の人的充実を求める声が複数あり，「裁判所庁舎に弁護士会による相談もあるとよい」との意見もあった。



第2の「裁判所内の行き先場所は，すぐ分かりましたか」「庁舎案内について職員の対応や説明はどうか」との質問については，回答した161人中の46人（28.57%）が「なかなか分からなかった」と回答している。その理由として，「案内板が少ない」「案内板の表示内容が分かりにくい」「部屋の表示が分かりにくい」との声が多数寄せられた。職員の対応については，「良い」が6割にのぼっているが，「思いやりがない」「冷たい」との回答もあった。

### 意見交換

その後，市民委員を交えての意見交換が行われ，裁判所委員会の議論のさらなる活性化に向けて，委員会期日間における準備協議の必要性，市民委員と弁護士委員の日常的な意見交換（メーリングリストを含む）や，それをバックアップする弁護士会の態勢の重要性，関心を持つ市民との連携など，様々な提案が出された。

今回の地裁委員会のアンケートについては，マスコミの関心が高く，複数の新聞が報道し，東京地方裁判所委員会自体のPRにもなった。弁護士会としても今後の取り組みにつなげていくことが求められている。